

B08010 石田裕平

日本の少子化

今日のAgneda

- ① 出生率が低下している原因の移り変わり
- ② 結婚の変化と夫婦の出生行動の変化
- ③ 結婚はどう変わったか
- ④ 夫婦の出生行動はどう変わったか
- ⑤ 世代別の出生行動の変化

①出生率低下要因の変遷

① 出生率低下要因の変遷

合計特殊出生率：

期待平均こども数（その年の年齢別出生率からその割合通り女性が赤ちゃんを産むと仮定。）

① 出生率低下要因の変遷

出生率低下要因：

① 未婚率↑

1970~1990

② 夫婦が生む子ども数↓

1990~

②結婚の変化と夫婦の出生行動の変化

②結婚の変化と夫婦の出生行動の変化

結婚or男女関係の変化 → 出生率変動のきっかけ

1970～2005年

出生率低下

not because
because

生み方の変化

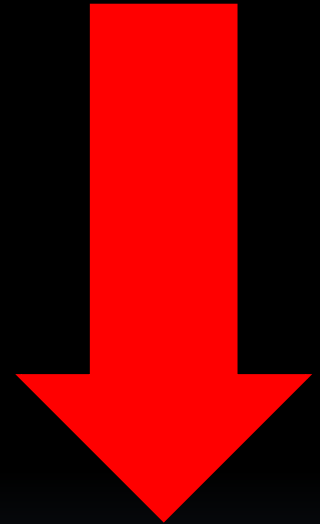
結婚の仕方の変化

BUT!!

②結婚の変化と夫婦の出生行動の変化

2005年

- ・ 夫婦が最終的に持つ子ども数
- ・ 結婚15年以内の夫婦の出生率
- ・ 理想子ども数
- ・ 予定子ども数



結婚にも出生行動にも変化がっ！

③結婚はどう変わったか

③結婚はどう変わったか

平均初婚年齢

	男性	女性
1975	27.0	24.7
2006	30.0	28.2

男性: 27.0 → 30.0 (+3.0)
女性: 24.7 → 28.2 (+3.5)

25歳の未婚率

1980	41.2%
2005	74.3%

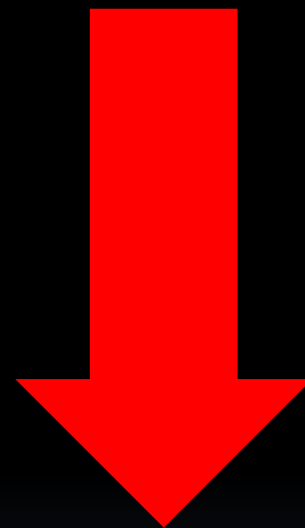
1980: 41.2%
2005: 74.3% (+33.1%)

④夫婦の出生行動はどう変わったか

④夫婦の出生行動はどう変わったか

2005年

- ・ 夫婦が最終的に持つ子ども数
- ・ 結婚15年以内の夫婦の出生率
- ・ 理想子ども数
- ・ 予定子ども数



結婚にも出生行動にも変化がっ！

④夫婦の出生行動はどう変わったか

理想子ども数 > 予定子ども数



子育てや教育にお金がかかるから

⑤世代別の出生行動の変化

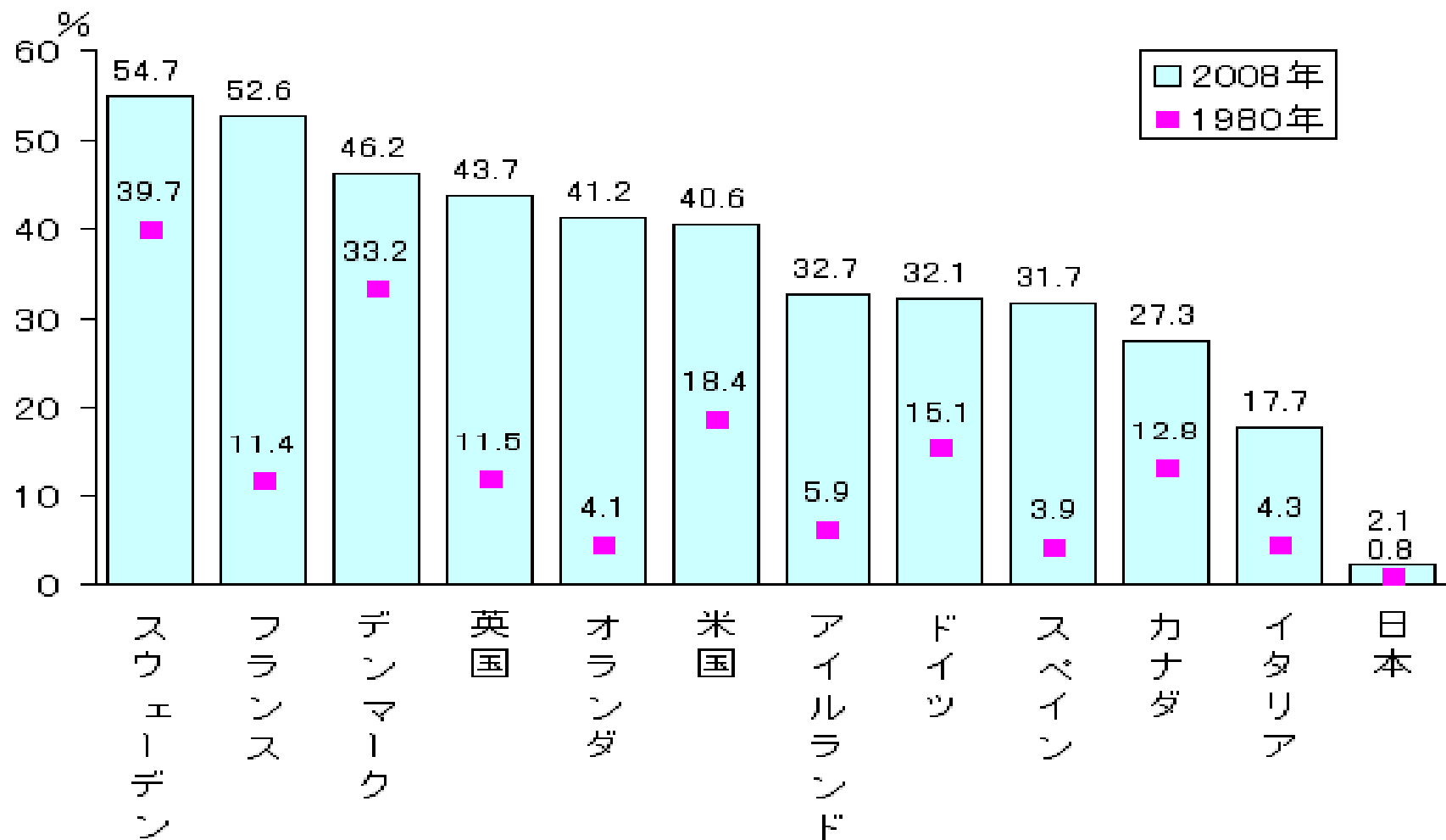
⑤世代別の出生行動の変化

	生涯の子ども数が2人以上
～1955年生まれ	70%
1970年～生まれ	50%



一人っ子&無子が半分以上に！？

世界各国の婚外子割合



(注) 未婚の母など結婚していない母親からの出生数が全出生数に占める割合である。
 ドイツの1980年は1991年のデータである。2008年について英国、アイルランドは
 2006年、カナダ、イタリアは2007年のデータである。

(資料) 米国商務省, Statistical Abstract of the United States 2011

日本: 厚生労働省「人口動態統計」

第3章

諸外国の少子化

ワークライフバランス(1)

2011/01/10

大江 由紀

a. 北欧諸国

▶ 例: スウェーデンの出生率

1960年代 本格的なベビーブームはなし

1983年 出生率1.61



1990年 人口置換水準まで回復



1998年 1.5付近まで低下





2000年代 1.8超の高水準を維持



・・・なぜこれだけ変動したのか？

- ▶ 1970年代の出生率低下の要因
= 出産の先送り
- ▶ 1980年代半ば以降の回復
= 20歳代での出生率の低下を30歳代で補う
- ▶ 晩婚化・晩産化の進行と同時に婚外子が増加
1960年代は10%→2000年代は40～50%
スウェーデンでは過半数

- ▶ 「結婚→出産とは限らない」
 1. 欧米では子の早期独立が一般的
 2. 約7割の若者が同棲している
 3. 初婚年齢 > 第1子出産年齢は珍しくない

▶ 先進諸国では
婚外子の割合  出生率 

▶ 家族政策の効果

=仕事と子育ての両立を実現

1. 男女ともに育児休業制度を利用
2. 育児休業中の所得補償
3. 公的保育サービスの充実

▶ 女性の労働参加率 

▶ 男性の家事参加率 


b. フランス、イギリス、アメリカ

▶ フランスの出生率

ベビーブーム後の減少 

1970年代半ば 2.1を下回る 

1980年代 1.8前後で推移 

1990年代前半 1.66まで低下 

2000年以降 約1.9まで回復・現在も維持 


▶ イギリスの出生率


1960年代まで 2.5超 
1970年代 人口置換水準を割る 
1990年 1.83 
2000年 1.69 
現在 1.8前後キープ 

▶ アメリカの出生率

1950年代後半～1960年代前半 ベビーブーム 

1970年代半ば 人口置換水準を割る 

1990年代 2.0まで回復 

2000年代 人口置換水準付近を維持 

▶ 共通点

1. ベビーブーム後の出生率連続減少
2. 1970年代後半に最も落ち込む
3. パートナー関係の多様化

16-29歳の同棲率40%超

婚外子の増加

従来の婚姻より事実婚が広まる傾向

3. は北欧諸国に共通

▶ フランスの家族政策

1. 手厚い家族給付

3子以上の子をもつ家庭に有利

2. 所得税の優遇

3子以上の子をもつ家庭に有利

▶ 国をあげて、公的に出生を促進する政策

▶ イギリス、アメリカの政策



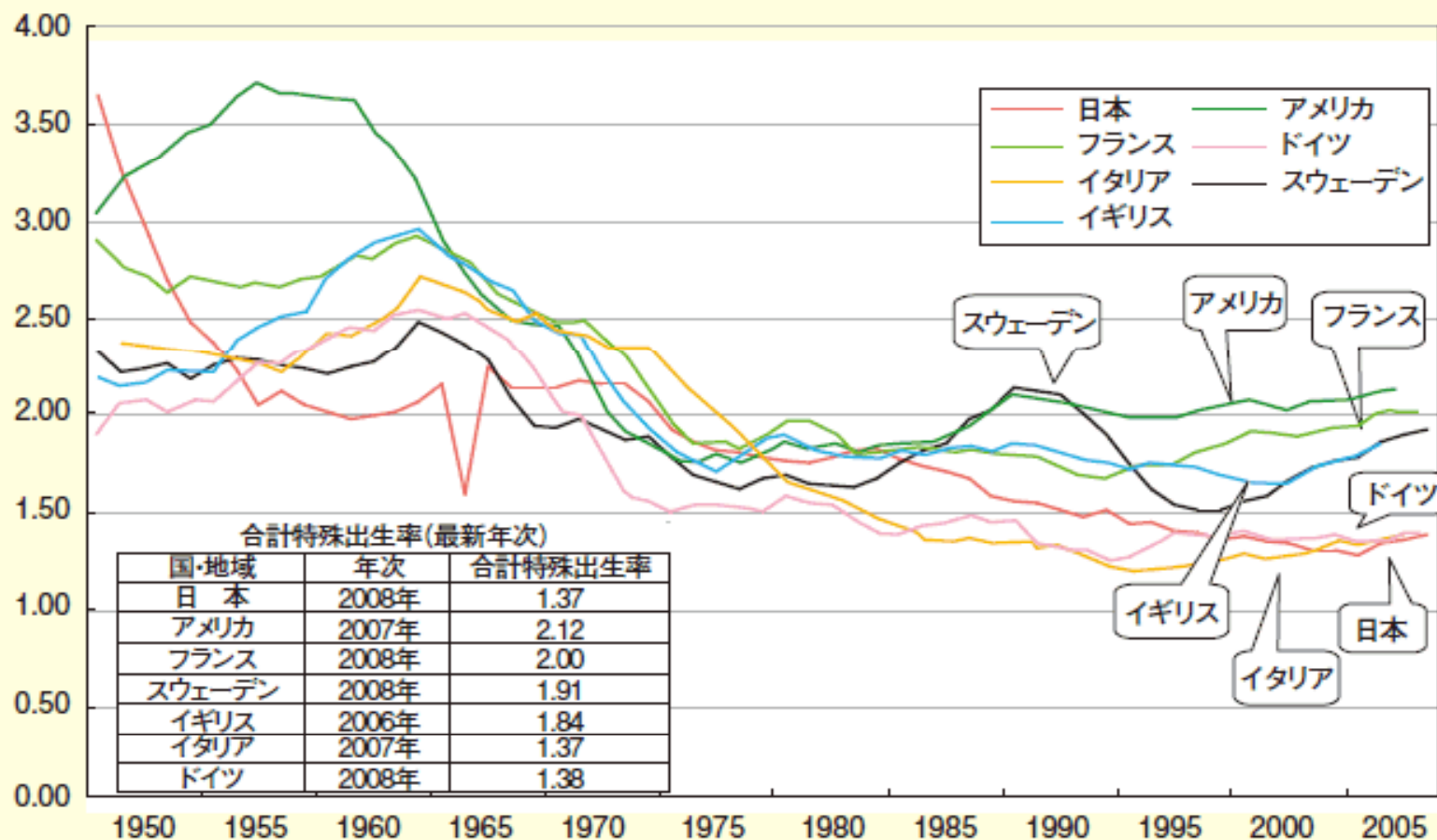
国は家族政策に不介入が原則

民間の保育サービスが充実

柔軟な雇用制度(再雇用やキャリア継続が容易)

男性の家事参加率が比較的高い

第1-2-12図 主な国の合計特殊出生率の動き



資料：ヨーロッパはEU "Eurostat"、Council of Europe "Recent demographic developments in Europe"、United Nations "Demographic Yearbook"。アメリカは U.S.Department of Health and Human services "National Vital Statistics Report"、United Nations "Demographic Yearbook"、U.S. Census Bureau。日本は厚生労働省「人口動態統計」。

C. ドイツ、南欧諸国、日本

▶ 日本と並ぶ低出生率の背景

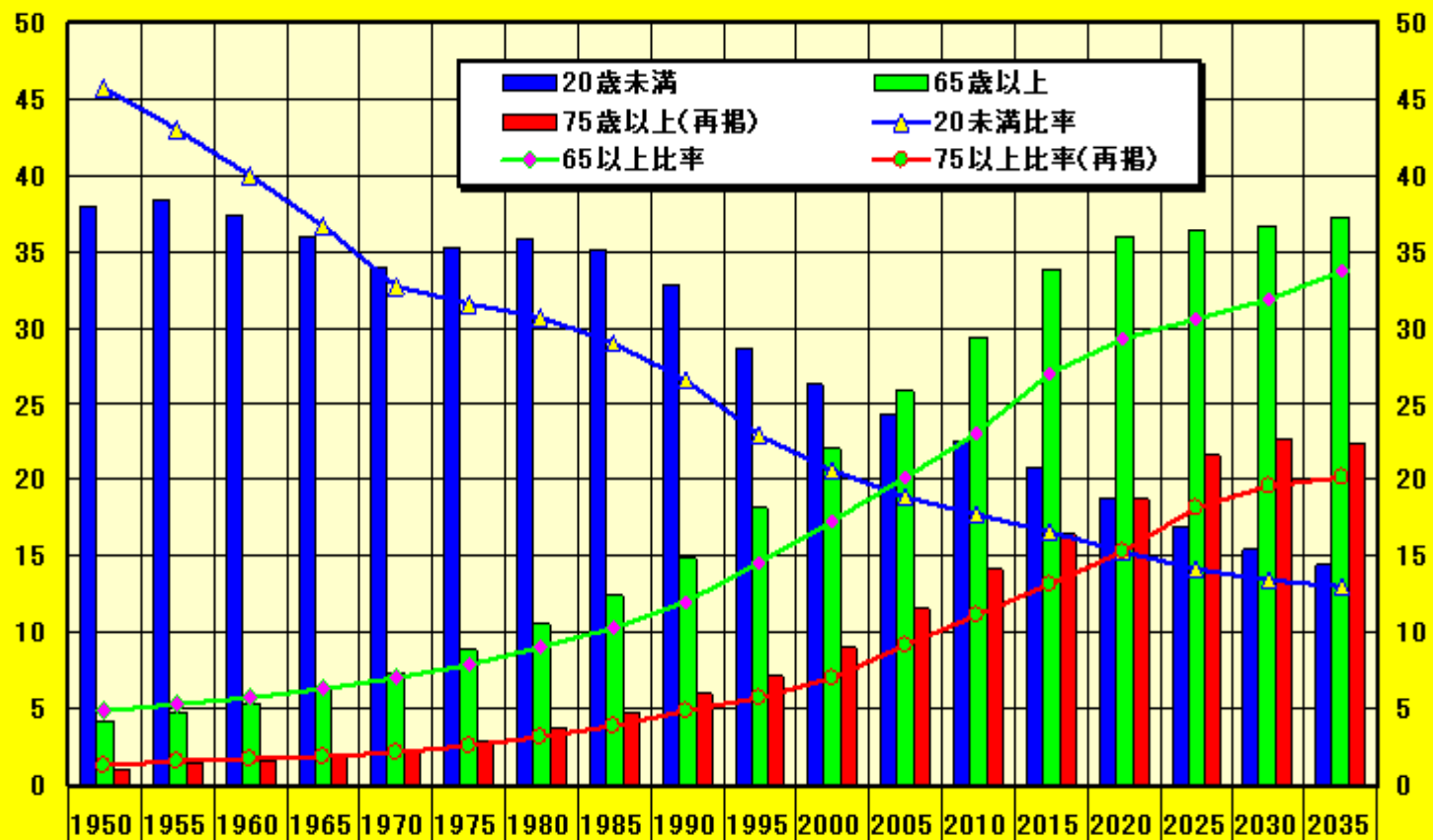
- 20歳代での出生の延期を30歳代で取り戻せない
- 若者の失業率20%超
- 低コストの住居の不足
- 女性の大学進学率上昇
- 親からの独立が西欧に比べ遅い
- 婚前同棲、婚外子が少ない(伝統的家族観が強い)

- 家庭も企業も「男女分業」が前提
 - 公的な保育サービスが不十分
 - 育児休業中の所得補償がないまたは手薄い
- ▶ 少子化対策が遅れている！！！！

百万人

図1 年齢階級別人口の推移

%



20歳未満	38.00	38.42	37.38	36.02	33.89	35.22	35.85	35.05	32.82	28.70	26.19	24.18	22.54	20.82	18.81	16.93	15.50	14.49
65歳以上	4.11	4.75	5.35	6.18	7.33	8.87	10.65	12.47	14.89	18.26	22.01	25.76	29.41	33.78	35.90	36.35	36.67	37.25
75歳以上(再掲)	1.06	1.39	1.63	1.87	2.21	2.84	3.66	4.71	5.97	7.17	9.00	11.64	14.22	16.45	18.74	21.67	22.66	22.35
20未満比率	45.7	43.0	40.0	36.7	32.7	31.5	30.6	29.0	26.6	22.9	20.6	18.9	17.7	16.6	15.3	14.2	13.5	13.1
65以上比率	4.9	5.3	5.7	6.3	7.1	7.9	9.1	10.3	12.0	14.5	17.3	20.2	23.1	26.9	29.2	30.5	31.8	33.7
75以上比率(再掲)	1.3	1.6	1.7	1.9	2.1	2.5	3.1	3.9	4.8	5.7	7.1	9.1	11.2	13.1	15.3	18.2	19.7	20.2